

た。その第一冊として「思想と信仰」と題し、雑誌に寄稿された論文や、講演の筆記を収め年譜を添へて出版されたのである。凡て小篇であるから、十全の力を注がれたものではないが、却つてその中に師の面目が躍如として紙面に漲つてゐるやうである。私は近來この書ほど尊敬の念を以て愛讀した佛教書は無かつた。一々の論文をこゝに紹介する餘裕はないが、師の學問上の主張を最も端的に示された「佛教々學に對する懷疑」の要點だけは、こゝに紹介しておきたいと思ふ。師の觀察による、明治初年に西洋の學問殊に基督教が入つて來たので佛教徒は非常に恐れて、熱心にこれらの學問と宗教を研究した。その爲に佛教界は非常に活氣を呈したのであつたが、研究して見ると、案外詰らない。西洋の宗教や學藝の持つ内容は、佛教の中に昔から備はつてゐると知つて、安心すると同時に研究心を失つてしまつた。さうして佛教々義を正しく一般に知らしめやうとはせず昔ながらの教義を、昔ながらの方法で布教を試み、何等の改造改善を施さうと企てなかつたので、佛教教徒の運動は可なり盛んであつたに拘らず、成功しなかつた。勿論不成功の原因としては、政府も社會も明治大正を通じて佛教を知らず、寧ろ迫害せんとしたやうな時代であつた爲でもある。しかし何と云つても佛教の不振は、佛教徒自らが新しい思想信仰を輕んじた點にあることは争はれない事實であらう。この觀察は必ずしも大等師を待つて始めて知るほどの珍らしい觀察ではないが確に佛教徒にさつて頂門の一針となすべきである。

最後にこの全集は裝釘に工夫を凝して、永久の記念とする事

が出来るやう出来て居り、かつ分賣を認めた點に於て、發行書店の努力を多きすべきものであると思はれる。

(高橋俊乘紹介)

## 彙報

### 哲學茶話會

六月二十二日(土)午後六時より、樂友會館に於いて、本誌所載の高坂正顯氏「二つの言葉について」(カントに於ける先驗的と實驗的)を問題として、談論あり。

### 印度佛敎學例會

六月十九日(水)午後六時より、學生集會所に於いて「佛敎々學の一掃系としての世親唯識觀と其問題」稻津紀三氏

### 心理學讀書會

六月二十日(木)午後三時より、心理教室に於いて「E. H. Doughty: "The crownmind"」毛利就丸氏

### 倫理學例會

六月二十二日(土)午後六時より、樂友會館に於いて「プラトン倫理學の方法」小田清氏

### 社會學例會

六月二十一日(金)午後六時より樂友會館に於いて、高田保馬博士出席のもせに開催さる。

### 美學會

六月二十一日(金)午後六時より、樂友會に於いて「スポーツの快感に於ける Funktion の意味」中井田一氏

寄贈圖書

(昭和四年三月—六月)

新羅旬文法

田中秀史著

岩波書店發行 四・三〇圓

イマヌエル  
ト論理學

田邊重三譯

同 發行三・〇〇圓

哲學第五輯

三田哲學會

丸善株式會社發行 一・八〇圓

史的觀念論の諸問題

三木 清著

岩波書店發行 二・〇〇圓

フオール  
レンデル

西洋哲學史第一卷

粟田賢三  
吉野源三郎譯 同 發行 二・八〇圓

科學方法論

戸坂 潤著

同 發行一・五〇圓

社會學

新明正道著

同 發行一・五〇圓

明治維新の精神と人物

雜賀博愛著

金鷄學院刊行

會國藩內訟錄二

金鷄學院々生譯

同 刊行

晴耕雨讀讀本

菅原兵治著

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

寄贈雜誌新聞

同 刊行

哲學雜誌 昭和四年三月・四月・五月 第五〇・五一・五二・五三・五四・五五・五六・五七號

(昭和四年三月—六月)

哲學青年

同 三月・四月・五月

第二卷第五・六・七號

丁酉倫理會講演集

同 三月・四月・五月

第一・二・三・四・五・六・七・八・九號

倫理研究

同 四月・六月

第一號・第二號

精神科學

同 四月

第四卷第二號

理想

同 四月(ヘーゲル研究號)

第三年第一册

同 六月

第三年第二册

第二一・二二・二三號

眞宗研究

同 三月・四月・五月

第二一・二二・二三號

宗教と藝術

同 四月(創刊十年記念號)

第十卷第二號

商學討究

同 三年十二月

第三卷下冊

國史と國文

同 四年二月・四月・五月

第四八・五〇・五一號

全人

同 三月・四月・五月

第三二・三三・三四號

學校教育

同 三月・四月・五月

第一八九・一九〇・一九一號

靜岡縣教育

同 三月・四月・五月

第三八三・三八四・三八五號

帝都教育

同 三月・四月

第二八八・二八九

信濃教育

同 三月・四月・五月

第五〇・五一・五二號

東亞之光

同 三月・四月

第二四卷第三・四號

生理學研究

同 二月・三月・四月

第六卷第二・三・四號

社會學徒

同 三月・四月・五月

第三卷第三・四・五號

願 慧

同 三月・四月・五月

第八年第三・四・五號

奈良縣教育

同 二月・三月・四月

第一九〇・一九一・一九二號

觀 想

同 二月・三月

帝國大學新聞 昭和四年二月廿五日・三月四日・十一日・十八日・廿五日・四月一日・八日・十五日・廿二日・廿九日・五月五日・十三日・二十日・廿七日・六月三日・十日